

獣害回避のための難馴化忌避技術と生息適地への誘導手法の開発

1 中核機関・研究総括者

(独) 森林総合研究所 川路 則友

2 研究期間

2005～2007 年度 (3 年間)

3 研究目的

野生鳥獣による農作物被害は全国的に深刻な問題になっている。とくに加害度の大きいサルおよびシカに対して有効で持続的な被害回避技術の開発が求められている。このため、馴れを生じさせない忌避技術、本来の生息域へ誘導するための効果的な追い上げ技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

- ① サルに対する難馴化忌避技術を含めた持続的な被害防除手法の開発（京都大学靈長類研究所、名古屋大学大学院情報科学研究科、奈良県農業技術センター、滋賀県農業技術振興センター）
動物の感覚刺激に対する各種影響の実験をとおして、難馴化防除技術を開発するとともに、これまで利用されている防除技術の改良によって、馴化に迅速に対応可能な技術を開発する。
- ② シカ等を対象にした難馴化忌避技術の開発（(独) 森林総合研究所、兵庫県立人と自然の博物館、山口県林業指導センター、九州東海大学農学部）
これまで利用されている防除技術の改良によって、馴化に迅速に対応可能な技術を開発する。また、犬等を使って、加害動物の行動の変化に対応する持続的な防除法を開発する。
- ③ サルの効果的追い上げ技術の開発（(独) 森林総合研究所、長野県林業技術センター、宇都宮大学農学部付属演習林、日本獣医畜産大学獣医学部）
目的の地域へサルを移動・定着させるための追い上げの手法について、サルの行動特性をもとに、威嚇追い上げの方法を開発するとともに、追い上げの速度、強度などについての基準を確立する。

5 目標とする成果

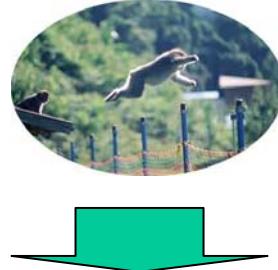
サル、シカ等に関して、馴れを生じさせないなどの効果が持続する忌避技術が開発され、効果的な追い上げが可能となるようなマニュアルが整備される。これにより、これまでの被害防除法の欠落部分が補われ、野生獣類による農作物被害軽減のための総合的な技術体系が確立できる。

獣害回避のための難馴化忌避技術と生息適地への誘導手法の開発

現 状

増加する野生獣類による農林業被害

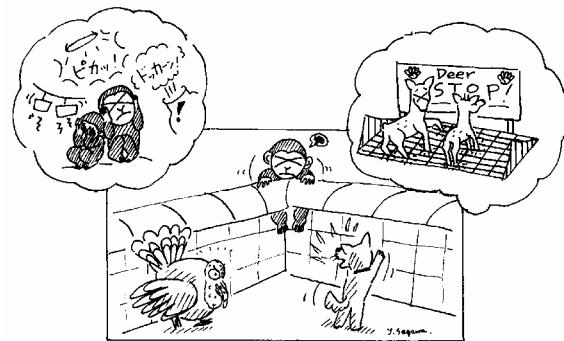
既存防除法では、馴れを生じ一時的な効果しか得られない



森林から農耕地への行動圏拡大により被害地域が増大

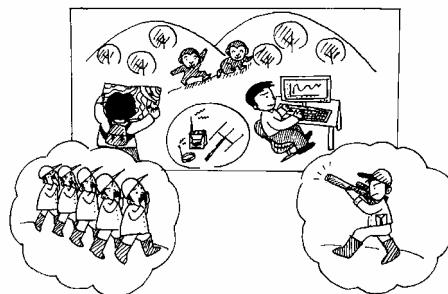


研究内容



シカ等に対する難馴化忌避技術の開発

サルに対する持続的な防除法の開発



サルの効果的追い上げ技術の開発

達成目標

人間活動域からの効果的な排除と生息適地への誘導に対するマニュアルの作成

波及効果

農業と自然生態系における野生動物との共生